

支援カード エビデンス版 ― 先生用②（使う場の一覧）

大原則：カードは「配って終わり」では効きません。効果が確認された研究はどれも、カードを教える手続きの一部として使っています（教師がモデル→いっしょに→本人だけ／記録→称賛とセット）。合言葉は本人が動作の直前に声に出す台本です。この情報は先生用シートだけに載せ、子どもに見せる掲示版・ミニ版には書きません。

カード	あいことば	使う場（これがないと効かない）	根拠
● C11 できたら ○ カード	できたら ○	先生と目標を決める→本人が記録→○が出たら称賛。この3点セットで初めて効く。	自己管理・セルフモニタリング（メタ分析・最強）
● C12 いまの べんきょうにもどる カード	いま、やることはこれ	最初はタイマー/先生の合図で→徐々に本人だけにフェード。	自己管理・セルフモニタリング（41研究メタ分析）
● C13 まず 1こ カード	まず 1こ	机上常駐。「最初の一歩」（名前を書く・1行目を読む）は先生と決めておく。	視覚支援・課題分析（NCAEP確立EBP）
● C14 やることリスト（かきこみよう）	やることを 上から1つずつ	1工程1行で書く（先生or本人）。終わったら✓を自分で付ける＝自己記録と接続。ラミネートして机上に。	課題分析・視覚支援（NCAEP確立EBP）
● C15 まにあわないときの さくせん カード	のこりは「いつやるか」をきめる	「全部やらないと次に進めない」子に。あらかじめ「どこまでやるか」を示し、残りをやれる時間と場所を先に伝えておくとしり替えやすい。	見通しの調整・課題の構造化
● D01 テストを受ける カード	まず なまえ	手順を課題分析して見える化。最初はテスト前に学級全員で唱えてから配ると、その子だけの物にならない。	視覚支援・課題分析（NCAEP確立EBP）
● D02 テスト勉強の カード	見ないで とけるかな？	自主学習ノートの導入時に、先生が一度「閉じて解く」をやってみせる。宿題カードに貼ってもよい。	検索練習（テスト効果・学習方略研究）
● D03 話し合いの カード	聞いて・言って・くらべて	話型を黒板に掲示し、ペア→グループの順で練習。どの教科の話し合いでも同じカードを使う。	SST+話型指導（協同学習）
● D04 考えを まとめる カード	考えには わけをつける	意見文・記述問題の前に型を渡す（教師がモデル→本人）。国語でも社会でも道徳でも同じ型で通す。	文章構造・自己教示（CBIS）
● D05 ふりかえりの カード	できた・わかった・つぎは	授業の終わり5分を「ふりかえりタイム」として毎時間固定すると自走する。書けない子は口頭→先生が代筆から。	自己評価・セルフモニタリング
● D06 めあての カード	なにを・どれだけ	めあては本人が選ぶ（与えられためあては効かない）。達成の確認（D05ふりかえり）とセットで回す。	目標設定（自己調整学習）
● D07 きき方の カード	口を とじて、目と耳で きく	「話をします」の合図とセットで学級全体の型にする。できている子を具体的にほめて広げる。W04（こまったときのひとこと）と接続。	視覚支援・聞く型のルーティン化
● D08 きいたら たしかめる カード	メモして「あってる？」	集団への口頭指示が抜けやすい子に。最初は先生がキーワードを板書して「メモすることば」を見せる。聞き返しは注意ではなく、ほめる対象にする。	聞き取りの補償方略（メモ・確認）
● D09 みじかく はなす カード	いいたいことは、まず 1つ	発表の前にキーワードを1つメモさせる。「30秒で」など話す時間を先に伝え、自分で区切れるようになる。	要点整理・自己モニタリング